

科目名	コーポレートファイナンスⅡ Corporate Finance Ⅱ		選択	2単位
学期・曜日・時限	春・木・6限		-	-
担当教員名	岩坂 健志/ 唐木 宏一	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p>&lt;講義の概要と目的&gt;</p> <p>「コーポレートファイナンスⅠ」が、受講者として在学生すべてを想定するMBA学生のための「基礎科目としてのコーポレートファイナンス」であるのに対して、本科目ではファイナンスにある程度以上の関心を持ち、それらを学修すべき能力をもつ（と自ら任じる）受講者を想定する。受講の目的（活用か研究か）は問わない。取り扱うべき題材も、応用編的なものを主体とする。企業価値評価の実践やPEファンドのケース分析などいくつかのテーマについて踏み込んだ学修（インタラクティブなものを含む）をおこなうものとする。とりあげる題材については、下記講義計画で予定する以外のものについても、受講生からの提案要望があれば応じる可能性がある。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>本講義は基礎科目としての「コーポレートファイナンスⅠ」とは異なり、実際のビジネスの場での「ファイナンス」知識の積極的な応・活用を志す受講者が履修することを想定する。主要な用語の概念定義とそれらの「道具」としての使い方についての的確な理解と習得にとどまらず、受講者それぞれが自分の手を動かす経験を通じて、「道具」を使えることの実感を持ち、さらに実務の場において講義のノート等を参照し「ファイナンス」にかかる課題に取り組める力（ちから）をもつことを、到達目標とする。この目的の達成は、講義を一方向的に聴くことのみでは困難である。前提となる予習復習に加えて、受講者諸君の質問や意見の開陳など積極的な参加が求められる。</p> <p>&lt;アクティブ・ラーニング要素&gt;</p> <p>いくつかのテーマにおいて、受講者個人作業やグループディスカッションを実施し、結果の発表と質疑応答を通じて、より深い学修を図る。</p> <p>&lt;ゲストスピーカー招聘&gt;</p> <p>必要に応じて実施する可能性がある。</p> <p>&lt;講義計画&gt;</p> <p><b>1回目：イントロダクション/実務の場で必要が想定される「ファイナンス」とは（岩坂・唐木共同）</b> ・要点：「ファイナンス」基本の振り返りと、講義トピックの使用が想定される局面や学ぶ意味の確認</p> <p><b>2回目：企業のバリュエーション1（岩坂）</b> ・要点：企業価値（有形価値・無形価値）の形成の確認</p> <p><b>3回目：企業のバリュエーション2（岩坂）</b> ・要点：上場企業の株価推定（財務諸表分析、シナリオ分析等）</p> <p><b>4回目：企業のバリュエーション3（岩坂）</b> ・要点：未上場企業の株価推定（インカムアプローチ、マーケットアプローチ等）</p> <p><b>5回目：企業のバリュエーション4（岩坂）</b> ・要点：上場企業における具体的株価評価とライバルの比較</p>				

## 6 回目：証券市場詳論 1（岩坂）

・要点：証券市場とポートフォリオ理論の基礎（証券市場の概要、意思決定プロセス等）

## 7 回目：証券市場詳論 2（岩坂）

・要点：株式ポートフォリオの作成（1）（シナリオ分析とセクター選択）

## 8 回目：証券市場詳論 3（岩坂）

・要点：株式ポートフォリオの作成（2）（定性・定量分析による銘柄選択）

## 9 回目：PE ファンドの実態と活用 1（唐木）

・要点：PE ファンドの誕生の経緯、構造と期待される機能

## 10 回目：PE ファンドの実態と活用 2（唐木）

・要点：PE ファンドの実例検討、内包する課題と新たな動き

## 11 回目：PE ファンドの実態と活用 3（唐木）

・要点：受講者による事例検討とその発表（グループ or 個人）

## 12 回目：SPAC の基本と活用（唐木）

・要点：SPAC の基本構造の説明と活用事例の検討 課題について

## 13 回目：銀行取引詳論 1（唐木）

・要点：銀行業務の基本（構造と機能、利用者にもたらす意味）、銀行の事業活動の動機について

## 14 回目：銀行取引詳論 2（唐木）

・要点：融資取引詳論 背景にあるロジックと実運用における乖離等について

## 15 回目：銀行取引詳論 3 および全体総括（唐木）

・要点：保証の考え方 8 回目のポートフォリオの成果確認 全体のレビューと質疑応答・意見交換

### <講義の進め方>

配布資料（PPT や PDF）を足がかりとして実務への応用や、関連する今日的な話題について講義をおこなうほか、講義時間中にも受講生諸君自身で「手を動かす」時間を確保する。人数構成等の面で可能であれば、チームを構築しチームでの討議と課題実習、そのクラスへの報告を織り交ぜる。時間中の学生からの質問、意見はいつでも受け付ける（疑問はあとで質問しようと思わず、その場で尋ねること）。

### <事前事後学修内容>

詳しくは講義にて指示するが、事前に Teams 等にアップし配布する講義資料（講師作成の PPT や、書籍論文等の抜粋 PDF 等）を必ず 1 回は読んだうえで（精読までは求めない）、当日のテーマについて事前に疑問点等を明確にしておくこと。

### <予習・復習時間>

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

### <教科書及び教材>

『金融機能による社会的課題の解決』岩坂、唐木著、白桃書房、2020 年  
ほか、必要に応じ講義の Teams 等を通じ配布する。

### <参考書>

『日本のエクイティファイナンス』鈴木健嗣、中央経済社、2017 年  
『プライベート・エクイティ投資の実践』幸田博人、中央経済社、2020 年  
『ファンダメンタル投資の教科書』足立武志、ダイヤモンド社、2019 年

『ウォール街のランダムウォーカー』バートン・マルキール、日本経済新聞出版社、2023年（新版）

ほか、必要に応じ指示ないし配布する。

<成績評価方法>

主としてグループ課題への取り組み姿勢や成果、講義への参加（討議への貢献度等）の度合いを評価する。レポートを2回程度課す可能性がある。欠席6回以上は成績評価しない。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

全体については講義のTeams等にて逐次実施予定。

<履修条件>

「コーポレートファイナンスⅠ」が既習であることが望ましい。

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

木曜5限。まずe-mailで連絡すること。左記指定時間以外でも時間を確保することがある。

<その他>

特に無し